

1 わたしたちのくらしと生き物

④大阪市内にすむ外来種の生き物

留意点

- 外来種の生き物が生物多様性におよぼす影響について理解できるようにする。
- 外来種の大量繁殖による生物多様性の消失を防ぐために、自分たちにできることを考えるようにする。

たいていの外来種は、やってきた地域の自然に合わなかったり、限られた地域でしか生活できず、影響は小さいのですが、一部の外来種は、外敵が少ないため、地域の自然にうまく入り込み、仲間をたくさん増やして、もともと大阪にすんでいた生き物をおそったり、すみかやえさをうばったりするものもいます。これまでの生物多様性を守るため、さまざまな生き物を保護し、ともに生きていかなければなりません。

外来種を駆除するというのも自然を守るための一つの方法ですが、大切なことは、問題を引き起こす、またその可能性がある外来種を入れないようにすることです。ペットとして飼育や栽培をしている外来種を、自然の中にごやみに放さないことも、大切です。

近年、2017年以降、都市部の河川や池では外来水草の繁殖(おこぼれ)が大きな問題になっています。外来水草が繁殖すると水の中は暗くなるので、魚や水生植物の生育が妨げられ、また、水にとけいている酸素が少なくなり、魚もすむづらくなります。

外来種(ボタンフクサ)がふると、いはいと水の酸素が少なくなる(自然保護局)

楽しいは外来種かな？
こういう環境にしまったら
原因はどこにあるの？
これからどうして
いくのがいいかな？

もともとこの地域にすんでいた生き物たちを
外来種から守る活動が
行われているんだね。

5 現在行われている自然を守るための活動

1940年代には淀川の左右両岸に干潟が連なり、干潟の面積は約180ヘクタールあったとされています。ところが1998年には約50ヘクタールに減少しました。その原因は、河川改修による影響のほか、今から50～80年ほど前にたくさんの地下水をくみ上げたことによる急激な地盤沈下によるものと考えられています。

現在、ワンドや干潟を再生する取り組みが行われています。干潟の面積を元にもどすことを目標にして、柴島、海老江、大淀など可能な所から干潟の再生事業が進められています。また、2008年3月に51個あったワンドを、およそ10年間で90個以上に増やす計画が進められていて、たくさんの生き物がすむことができる環境づくりに取り組んでいます。

ほかにも、淀川でのごみ拾いや、カニをはじめとしたさまざまな生き物のすみかとなる干潟のそりなどにみんなが協力して取り組んでいます。

干潟にすむ生き物
ワンドの生き物
淀川再生干潟でのシロシロのようす
淀川再生ワンドの調査のようす
淀川でのごみ拾い活動

環境を守るために、わたしたちにできることは何だろうか？

わたしたちのくらしは、世界中の生き物からもたらされるめぐみによって支えられています。しかし、わたしたち人間の活動が原因で、多くの生き物が絶滅の危機にさらされています。生物多様性がもたらすめぐみをこれからもずっと受けられるようにするために、わたしたち一人ひとりができることを考えて行動することが必要です。

P.14の「調べ学習の手紙」をよんで、どのよう生き物がいるか実際に調べてみよう！

1 わたしたちのくらしと生き物

⑤現在行われている自然を守るための活動

ねらい

現在の自然を守るための活動の例を通じて、生き物が生活する環境を保全するためには一人一人が考え実際に行動することが大切であることに気づき、自分に何ができるか考えるようにする。

教科との関連

社会 指導計画(第13次試案):
第5学年 V 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連

理科 教科書(啓林館『わくわく理科』):
第5学年 2 メダカたんじょう

第6学年 4 生物どうしのつながり
10 自然とともに生きる

留意点

- 生物多様性を守るためには、どのような立場の人がどのような取り組みをしているかについて知るようにする。
- 自分にできることは何か、記載されている活動をもとにして考えるようにする。
- 自分にできることを友達と交流することで様々な考えに気づき、より具体的、より効果的な方法で自然豊かな大阪にするために実践できるようにする。

参考資料

- 外来生物被害予防三原則
～侵略的な外来生物(海外起源の外来種)による被害を予防するために
1. 入れない ～悪影響を及ぼすかもしれない外来生物をむやみに日本に入れない
2. 捨てない ～飼っている外来生物を野外に捨てない
3. 拡げない ～野外にすでにいる外来生物は他地域に拡げない
- ◆出典:環境省自然環境局ホームページ 日本の外来種対策 外来種問題を考える
<https://www.neti.env.go.jp/nature/intro/2outline/invasive.html>

参考資料

- ◆「みんなの淀川を、みんなで守ろう」淀川河川事務所リーフレット
http://www.kkr.mlit.go.jp/yodogawa/activity/environment/nb3uba0000007yw-att/yodo_rules.pdf
→淀川の大きさや生息する動植物の紹介、川を汚さないためにできることを記載。
発行:平成16年11月
※「淀川資料館」及び「三栖間資料館」の休館日については淀川河川事務所ホームページをご確認ください。
<http://www.kkr.mlit.go.jp/yodogawa/shisetu/>